

千葉商大  
同窓会  
鳥取県支部報

2013年(平成25)年11月1日  
第14号  
千葉商大同窓会鳥取県支部  
支部長 渡辺紀雄  
事務局 〒683-0051 米子市勝田町16  
森尾邦夫内  
TEL0859-33-5993



岡本

徳岡

渡辺支部長

足立

森尾幹事長



「第十四号に寄せる  
近況報告(母校と支部)」

支部長 渡辺 紀雄

鳥取県支部会員の皆様には、お元気に御活躍のことと拝察申し上げます。

早いもので昨年の支部報での挨拶から一年が過ぎました。その間、政権交代があり、底をはっていた景気に多少刺激が与えられました。が皆様にはどのような展望が開かれて参ったでしょう。

母校におきましては来年(平成二十六年)四月に新しく人間社会学科が開設「やさしさのプロを育てる三コーズ」として「家族」

「社会」「福祉」の三コースを用意して着々と準備が進んでいきます。

この事において「商経学部」「政策情報学部」「サービス創造学部」を合せて四学部となり、ビジネスに強い大学として成長を続けています。

支部においては第十四回定期総会を十二月二日(日)米子市のホテルハーベストイン米子で開催し、活動報告と収支決算の承認の後、出席者全員で懇親会

を行ない近況報告等を話しあいながら楽しい時間を過ごしました。

又、今年三月九日(土)〜十日(日)にかけてDブロック(中国)支部総会が松江で行なわれましたが、都合がつかず参加出来ませんでした。

今年度は鳥取県において開催される事となっておりますので皆様の力をお借りする事があればよろ



しくお願い致します。

毎回お願いとなりますが鳥取県支部の盛り上げに皆様の定期総会への御参加と支部報への寄稿(どんな題材でもかまいません)に御協力をお願い致します。最後にになりましたが会員皆様のご健勝とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

# 加藤寛 千葉商科大学名誉学長としてのよ



1926.4.3~2013.1.30

二〇一三年一月三十日、加藤寛名誉会長が逝去されました。我が母校に対して多大な功績を残されました。以下に先生の信念を知る事が出来る文章「大学新聞」「千葉商科大学報」を掲載します。

## 大学新聞 一九九九年十二月二十五 創刊号より

学校という所は、教師が教えるところではなく、学生と教師が一緒に頑張って勉強するところである。大学教師というのは、ただ教壇に立って教えるというのは駄目で、学生にしても、在学中の四年間の間に何カ月かは、外に出て仕事をすると。そしてその経験を勉強に活かすというふうに考える。つまり常に実学というか、実践していく学問を前提において考えるというのが千葉商科大学の考えです。そしてその実践というのが「政策」です。今までの学問は、「過去の

知識を覚えなさい」という教育です。だから、覚えるだけで、それをどういうふうに使ったらいいか、全く判らないわけです。ところがその「政策」を今、やらなければならなくなった。

また、大きな一つの時代の流れとして、自分のやりたいことを実行に移すには、とてもメディアが重要になっていきます。「情報」というものが非常に大きな役割を果たすわけです。私達は「情報」というものを取り入れながら、その「情報」を使いながら集め、「政策」を決めなければならぬ訳です。いろいろな条件を考えながら、モデルを作って実行する。これが「政策」です。即ち「情報」と「政策」が一体となって考えられるということ、で、「政策情報」という考え方が生まれた訳です。

情報というものは面白いもので、自分だけが持っている情報は価値がない、人に伝えることで価値がある。と同時に、人に伝えた途端に情報の値打ちが下がり、なくなってしまう場合もある。そこで政策をやりながら常にそれを発表し、さらにその情報を織り込んで、また新しい情報を作っていくようにしないと政策情報というのは完成しない。こういうことを考えながら、私たちは政策情報という学問

を作るような学部をつくって行きたい。

今、日本は景気が悪い、企業はコスト削減のためにリストを行う、これは経済学の発想です。経営学もそうです。しかしリストラされた人達がどこにいくのかが問題になるけども、そのことに対して経済学や経営学はなにも言っていない。みんな個人で努力しろと、言っているだけです。これは学問ではない。学問は、こういう方向で行くと決めたら、その結果が何をもたらして、どういうことになるかを考えて、その答えを出さなければならぬ。そういうことが出来ない学問は実学ではない。実践する学問ではない。「政策情報学部」は、実践する学問の場所である。

日本や日本人に欠けているのは、自立心だと思っています。自立する心を持つていないと、理念があっても勉強の意味がない。その第一は、経済的自立です。勉強するということは自立ですから、経済的に自立しなければならぬ。次は、世の中をどういうふうに変えていこうかという、行動面での自立心を持つてことです。三番目に、世の中には判らない事がたくさんありますから、そこに一つの道筋を与えるような自立心を持たねば

なりません。この三つの自立心の養成が急務です。本学の創設者の遠藤隆吉先生なんですが、実はこの先生のお父さんが、福沢諭吉が好きだったそうで、「お前は立派な教育者になれ」と諭吉の吉の字をとって、隆吉と名づけたらしい。その遠藤先生は、当時の社会学の第一人者になったんですが、この先生が非常に面白いのは、福沢諭吉と同じことを言っているんです。第一に平等でなければいけないこと。第二に平民ということ。

遠藤先生は平和主義者です。したがって戦争が始まると同時に、「自分はもう日本には愛想が付き」と言って、日本からはだんだん手を引いていったのです。巣鴨にある巣鴨高商が焼けてしまつて、この千葉に移るんですが、その時に遠藤先生も、身を引くように亡くなりました。

遠藤先生の理想は「治道家」にあつたんだと思います。治道家というのは、政治の治に道と書きまます。学問を修める、世の中を治めるという意味の治ですね。その理念が本学にはあるんです。だからそれを皆で考えていこう、改革はすべてそういう方向でしましょう、と言ってきたんです。これはどこの私学にもあてはまると思いますよ。だからそうした理念を打ち出すことによって改革を進める。理念なき改革は意味がないと、私は思います。

「千葉商科大学報 治道家 二〇四・一冬」版より

本学の創始者遠藤隆吉先生はこう喝破された。「余は政治家に非ず、実業家に非ず、而うして治道家なり」福沢諭吉は、明治維新にあたり、商業こそが文明開国の基本であるのに、世は近代化の物量文明に目を奪われ、人間行動の基本を忘れていてと考えて、慶応義塾を開設したのだが、遠藤先生も、同じく日本は明治の戦勝に酔い、

武士道精神を忘れたことが、商業の退廃をもたらしたのだと嘆いて、東京巢鴨の地に巢鴨高等商業学校を開設された。  
武士道精神とは新渡戸稲造のいう武士道すなわち相手を慈しむ心、仁である。

人間同士の信頼なくして商売は成り立たない。商売は見知らぬ人との取引だから、信頼が基本であり、信頼は仁に発する。  
いま日本経済が大転換を迎えているのは信頼を失ったからである。明治以来の大企業の名前が個人のステータス(地位)を表明する時代ではなくなってしまった。伝統的大企業の信頼が喪失したからである。大企業の経営者たちが次々と汚職にまみれ、自ら人間としての欠陥をさらけ出してしまった。

決して彼らは成績の悪い学生ではなく、むしろ優秀な学生であった。それは教育が仁を失っていったからである。成績の良い者が良い学

生であり、成績の悪い学生は排斥されていったのである。大学は学ぶところであり、知識を伝授するところではなく創り出す場所である。知の創出の場であるはずである。

治道家とは、複雑で混迷している社会の問題を発見し、新たななる知を再編し、実践して世の中に示すことの出来る人である。

表面の知識を追うのではなく、知識の裏にある人間関係を追究することが、知識の伝授ではなく知の創造がある。

一部掲載していない文章がありますが、加藤先生の信念は伝わると思います。

加藤寛先生の信念は、卒業生にとつて重要な指針であり、多くのことを学ぶことが出来ると思います。心よりお悔やみ申します

母校近況

幹事長 森尾邦夫

久しぶりに商大のホームページを見ていたら、商大近辺の風景が思い出された。里見公園下の河川敷での練習で見る江戸川、市川駅から商大に至る真間通り、高府台駅の周辺等々の風景。

四十四五年前のあの頃、ひたすら部活のラグビーやマージャン、バイト等に精力を傾けていた。私だけでなく先輩、同期生周囲が皆

そうであったと思う。それでも社会人になる道はそれなりに開かれていて、好きな道や生活を選んでいった。そんなことを思い出したのは同窓会情報誌「きずな」による各種の情報です。今、数年前から就職氷河時代と言われ、正社員の道が狭まり問題となつています。そんな中、商大の新しい学部であるサービス創造学部は、今年第一期生が九六・六%の就職率だったそう嬉しいことと思う。

とです。そこで将来の生き残りをかけて大学改革を進め、文系の男女共学総合大学を目指し、女性の活躍ができる社会分野、国際人材の養成のために二つの新学部を構想する。

[ホームページのご案内] 鳥取県支部のHP

http://www12.plala.or.jp/cuc\_tottori/ 「千葉商科大学 同窓会」で検索出来ます ぜひご覧ください

[事務局よりの連絡]

鳥取県支部、平成25年度会費をお願いしています。会費は3,000円です。同封の郵便振替用紙にてお願いします。

又、郵便振替口座は、下記の通りです。

口座番号 01340-3-62952

加入者名 千葉商大鳥取県支部

または

銀行口座 鳥取銀行 米子駅前支店

普通2421031

口座名 千葉商大鳥取県支部

しかし、島田学長によれば、今大学は、過去二〇年における若年人口の減少と、大学の増加による要因で存続が困難になるとい

というところでまず、来年二〇一四年四月に人間社会学部を開設する予定です。これは、商、経済、経営学と社会学、社会福祉学を結びつけ、暮らしやすい社会をビジネスで作らせる人材を養成することです。社会の変化に伴い母校の環境もどんどん変わっていきまくことを期待します。